

# ドイツ語A1とA3のクラスにおける 受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係

ドイツ語担当非常勤講師 金谷利勝  
石川工業高等専門学校教授

Über das Verhältnis zwischen der Anwesenheit und den Ergebnissen bei schriftlichen Examen, das ich bei den Studenten in meinen Deutschklassen A1 und A3 beobachten konnte.

KANAYA Toshikatsu (ISHIKAWA National College of Technology)

## Summary

When there are a proper place, a teacher and a learner or learning people, there is an education. As a real example, I took up my lecture, in which I taught German to the students in my German A1 and A3 classes at the university at the first semester in 1997. I introduced one of methods that I used in practice, when I valued the degrees of the achievement of the attending students in my classes. I investigated the numbers of attending times and the marks of two parer examinations of the attending students in my classes. I made up some lists of them. These lists offered me some good suggestions when I judged the students.

## 1. まえがき

平成3年の大学設置基準の改正以来、大学改革の動きが大きな波となって続いてきている。その中の1つに、講義内容や研究の実態を自己点検・評価する制度がある。最近、さらに多くの「自己点検・評価」の結果を発表するように言われるようになってきたように思われる。教員がそれぞれ日頃教育したり、研究したりしていることがらについて、自らが自らを知る意味で記録し、他者にもその中身がわかるように公表するように言われるようになってきた。

ドイツ語の授業において、教員と学生とが教室等で触れ合う場合に、そこで使用されている教科書がかなり大きなウエイトを占めることになる。そこで使用されている教科書は、教員が学生に何を教授しているかを端的に示す1つの教材である。教材である教科書について、過去に公表されている教科書をたどってみれば、

そこでどのような教育が行なわれていたかを、かなりの部分において推し測ることができる。私が過去14年間に、私のドイツ語の授業で使用したドイツ語の教科書を並べてみると、私が行なったドイツ語教育について、かなりの部分が見えてくるように思われる。このことは同時に、時間と空間を隔てて他の人が見ても、私のドイツ語教育の中身をある程度推測することができるものと思われる。しかし、このドイツ語の教科書のことは別の場所で記してみることにする。

ここでは、ドイツ語の授業を行なった後で、学生の成績の評価を行なう際の一つの方法について記してみようと思う。

私は前もって既に自分の受け持つ予定になっているクラスの学生に対して、使用する教科書とシラバスとを示した。初回(4月11日、金曜日)にガイダンスを行ない、授業の概要を話した。その時、学生の成績の評価は、出席状況、ドイツ語の音読、授業への参加度、

宿題の提出、筆記試験の成績等を勘案して、総合的に  
行なうことも話した。そこで、私が学生の成績の評価  
を行なう時の一部分にしか過ぎないのだが、ここで、  
学生の私の授業への出席度と筆記試験の成績との関係  
を検討してみたい。

ここでは、平成9年の前期(1997年4月1日より9  
月30日まで)において、私が担当したドイツ語A1と  
A3の2つのクラスの授業について記すことにする。  
週1回、90分の授業で、15回分である。対象とする学  
生は大学内の全学部(の)の学生であり、ある程度は学生の  
選択に任されている。

## 2-1. ドイツ語A1のクラスについて

ドイツ語A1のクラスの授業は、毎週金曜日4限目  
(14時30分より16時00分まで)C3教室で行なった。  
教科書は、金谷利勝(著)「ドイツ語24時間」Deutsch  
in 24 Stunden(1997年、郁文堂出版)を使用した。  
第1課より第12課まで講義を行なった。第1課より第  
6課までを第1回目の試験範囲とし、第7課より第12  
課までを第2回目の試験範囲として試験を行なった。  
第1回目の試験は、6月13日(金曜日)4限目に実施  
し、第2回目の試験は、7月11日(金曜日)4限目に  
実施した。両方共に100点満点で採点し、2回の点数を  
合計して、2で割って、2回の平均点を出した。ここ  
で出てきた点数を学生が獲得した基本的な点数として、  
これからこの点数をもとにして考えを進めることにする。

受講届出学生は69名であったが、欠席放棄学生が3  
名あったため、受講終了学生は66名であった。欠席放  
棄学生は男子学生で、1年生2名(3回出席と10回出  
席)、2年生1名(1回出席)であった。

以上のことをまとめると次のようになる。

- ・受講届出学生 69名(男子54名、女子15名)
  - ・1年生 64名(男子49名、女子15名)
  - ・2と4年生 5名(男子5名、女子0名)
- ・受講終了学生 66名(男子51名、女子15名)
  - ・1年生 62名(男子47名、女子15名)
  - ・2と4年生 4名(男子4名、女子0名)
- ・欠席放棄学生 3名
  - ・1年生男子 2名(3回出席、10回出席)

・2年生男子 1名(1回出席)

## 2-2. ドイツ語A1のクラスの 受講終了学生66名について

学生が私の授業に出席した回数と、その学生が獲得  
した点数とを調べ上げ、両方の関係を横軸と縦軸とに  
とって、分布表を作ってみる。ドイツ語A1のクラス  
の受講終了学生66名について分布表を作ってみると、(資  
料1-1)のようになる。

ただし、これから私の作成した資料を読む時には、  
以下の5点についても考慮に入れて読み取って欲しい。

- ①出席状況の中には遅刻と早退は含まれていない。1  
人の学生が遅刻1回又は早退1回をした場合を1件  
と数えると、受講終了学生66名の中では合計で14件  
となった。
- ②大学の都合によって、例えば、身体計測や健康診断  
のような行事が授業と重なった場合等は、学生は私  
の授業には出ていなかったのであるが、やむを得な  
い事態として、出席扱いにした。
- ③出席をとった後、講義をしている間に、眠っていたり、  
別の科目の本をだしている学生も少し見受けられた。
- ④教室外での学習、特に試験前の教室外での学習を、  
個々の学生がどれだけ真剣に取り組んだかによっ  
ても、点数はかなり上下してくるものと思われる。
- ⑤15回の授業中、2回はビデオで映像を見てもらった  
ので、筆記試験の内容の説明とは直接には関係のな  
い授業であった。従って、この時限に欠席した学生  
は、筆記試験の点数には少しの影響しかなかったも  
のと思われる。

## 2-3. ドイツ語A1のクラスにおける 受講終了学生66名の分析

受講終了学生66名の内分けは、男子学生51名、女子  
学生15名、であった。それで、男子学生51名、女子学  
生15名について、(資料1-1)にならって、分類して  
みると、(資料1-2)(資料1-3)が得られた。

ドイツ語A1のクラスは、主として1年生を対象と  
するクラスであったので、1年生62名と2・4年生4  
名とを(資料1-1)に合わせて分類すると、(資料1-  
4)(資料1-5)(資料1-6)が得られる。

〈資料1-1〉ドイツ語A1のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生66名について）

合計人数	2		1	2	21	40	66
90点					3	6	9
80点			1		4	11	16
70点	1			1	2	11	15
60点	1				7	7	15
50点					3	4	7
40点					2	1	3
30点				1			1
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料1-2〉ドイツ語A1のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生66名の内の男子学生51名について）

合計人数	1		1	2	19	28	51
90点					2	3	5
80点			1		4	5	10
70点				1	1	8	10
60点	1				7	7	15
50点					3	4	7
40点					2	1	3
30点				1			1
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料1-3〉ドイツ語A1のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生66名の内1年女子学生15名について）

合計人数	1				2	12	15
90点					1	3	4
80点						6	6
70点	1				1	3	5
60点							
50点							
40点							
30点							
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料1-4〉ドイツ語A1のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生66名の内の1年生62名について）

合計人数	1		1	1	20	39	62
90点					3	6	9
80点			1		4	11	16
70点	1			1	1	11	14
60点					7	6	13
50点					3	4	7
40点					2	1	3
30点							
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料 1-5〉ドイツ語 A 1 のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生 66 名の内の 1 年男子学生 47 名について）

合計人数			1	1	18	27	47
90点					2	3	5
80点			1		4	5	10
70点				1		8	9
60点					7	6	13
50点					3	4	7
40点					2	1	3
30点							
20点							
10点							
出席回数	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回 皆出席	合計 人数

〈資料 1-6〉ドイツ語 A 1 のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生 66 名の内の 2・4 年生の男子学生 4 名について）

合計人数	1			1	1	1	4
90点							
80点							
70点					1		1
60点	1					1	2
50点							
40点							
30点				1			1
20点							
10点							
出席回数	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回 皆出席	合計 人数

### 3-1. ドイツ語A3のクラスについて

ドイツ語A3のクラスの授業は、毎週金曜日3限目(12時50より14時20分まで)B5教室で行なった。教科書は、小塩節(著)「ドイツ語を学ぼう」Einfaches Lesebuch mit Grammatik(1996年、郁文堂出版)を使用した。第7課より第12課まで講義を行なった。第7課より第9課までを第1回目の試験範囲とし、第10課より第12課までを第2回目の試験範囲として試験を行なった。第1回目の試験は、6月13日(金曜日)3限目に実施し、第2回目の試験は、7月11日(金曜日)3限目に実施した。両方共に100点満点で採点し、2回の点数を合計して、2で割って、2回の平均点を出した。ここで出てきた点数を学生が獲得した基本的な点数として、これからこの点数をもとにして考えを進めることにする。

受講届出学生は39名であったが、欠席放棄学生が4名あったため、受講終了学生は35名であった。欠席放棄学生4名は男子学生で、2年生3名(1回出席、5回出席、8回出席)、4年生1名(2回出席)であった。

このクラスは、平成8年度後期(1996年10月1日より1997年3月31日まで)において、同一の教科書で私が担当したドイツ語A1(毎週金曜日)を受講した学生を対象としていた。従って、1年生は受講する資格なしで、2年生以上の学生を対象としていた。受講届出学生39名の内訳は、2年生31名(内女子学生6名)、3年生5名(内女子学生1名)、4年生3名(内女子学生0名)であり、男子学生32名、女子学生7名であった。また、前学期のA1より継続して履修した学生は10名であった。残りの29名は、新しく履修した学生であった。新しく履修してきた学生29名は、前学期までにドイツ語A3の単位を取れなかった学生ようだった。

以上のことをまとめると次のようになる。

- ・受講届出学生 39名(男子32名、女子7名)
  - ・2年生 31名(男子25名、女子6名)
  - ・3年生 5名(男子4名、女子1名)
  - ・4年生 3名(男子3名、女子0名)
- ・受講終了学生 35名(男子28名、女子7名)
- ・履修継続学生 10名(男子8名、女子2名)

- ・新規履修学生 29名
- ・終了学生 25名(男子20名、女子5名)
- ・放棄学生 4名
- ・欠席放棄学生 4名
- ・2年生男子 3名  
(1回出席、5回出席、8回出席)
- ・4年生男子 1名(2回出席)

### 3-2. ドイツ語A3のクラスの 受講終了学生35名について

受講終了学生35名について、(資料1-1)と同様の方法により分布表を作ってみると、(資料2-1)のようになる。

ただし、これから私の作成した資料を読む時には、以下の5点についても考慮に入れて読み取って欲しい。

- ①出席状況の中には遅刻と早退は含まれていない。1人の学生が遅刻1回又は早退1回をした場合を1件と数えると、受講終了学生35名の中では合計で38件となった。  
1年生を主体とするA1のクラスと比較すると、31名も少ないにもかかわらず、24件も多かった。2年生以上を対象とするクラスの場合は、それ程学生の授業に対する取り組み方に問題が多いということである。
- ②大学の都合によって、例えば、身体計測や健康診断のような行事が授業と重なった場合等は、学生は私の授業には出ていなかったのであるが、やむを得ない事態として、出席扱いにした。
- ③出席をとった後、講義をしている間に、眠っていたり、別の科目の本を出している学生も少し見受けられた。
- ④教室外での学習、特に試験前の教室外での学習を、個々の学生がどれだけ真剣に取り組んだかによっても、点数はかなり上下してくるものと思われる。
- ⑤15回の授業中、2回はビデオで映像を見てもらったので、筆記試験の内容の説明とは直接には関係のない授業であった。従って、この時限に欠席した学生は、筆記試験の点数には少しの影響しかなかったものと思われる。

〈資料2-1〉ドイツ語A3のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生35名について）

合計人数	5	3	6	10	3	8	35
90点			1				1
80点					1		1
70点	1	2	1	2	1	2	9
60点	2			2		2	6
50点				3	1	2	6
40点	2	1	2	1			6
30点			2	2		2	6
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料2-2〉ドイツ語A3のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係（受講終了学生35名の内の男子学生28名について）

合計人数	4	2	6	8	1	7	28
90点			1				1
80点		1	1			1	3
70点	2			2		2	6
60点				3	1	2	6
50点	2	1	2	1			6
40点			2	2		2	6
30点							
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料2-3〉ドイツ語A3のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係(受講終了学生35名の内の女子学生7名について)

合計人数	1	1		2	2	1	7
90点					1		1
80点	1	1		2	1	1	6
70点							
60点							
50点							
40点							
30点							
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

〈資料2-4〉ドイツ語A3のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係(受講終了学生35名の内の前学期A1より継続して履修した学生10名について)

合計人数	1	3	1	3		2	10
90点			1				1
80点		2				1	3
70点	1					1	2
60点				1			1
50点		1					1
40点				2			2
30点							
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数



〈資料2-5〉ドイツ語A3のクラスにおける受講学生の出席状況と筆記試験の成績との関係(受講終了学生35名の内の今学期A3を新たに履修した学生25名について)

合計人数	4		5	7	3	6	25
90点							
80点					1		1
70点	1		1	2	1	1	6
60点	1			2		1	4
50点				2	1	2	5
40点	2		2	1			5
30点			2			2	4
20点							
10点							
出席回数	10回	11回	12回	13回	14回	15回 皆出席	合計 人数

### 3-3. ドイツ語A3のクラスにおける 受講終了学生35名の分析

ドイツ語A3のクラスにおける受講終了学生35名の内、男子学生28名と女子学生7名について、前回と同様に分類してみると、〈資料2-2〉〈資料2-3〉のようになる。

受講終了学生35名の内、前学期ドイツ語A1を履修し、継続してドイツ語A3を履修した学生10名(内女子学生2名)と、今学期より新たにドイツ語A3を履修した学生25名(内女子学生5名)について、前回同様に分類してみると、〈資料2-4〉〈資料2-5〉のようになる。

#### 4-1. ドイツ語A1のクラスの資料より 読み取れること

〈資料1-1〉から〈資料1-6〉までに現れた事柄について考えてみる。

- ① 〈資料1-1〉〈資料1-2〉授業中に眠っていた、あるいは、授業外で真剣に勉強していた、と想像される学生が数人見受けられるが、だいたいにおいて

出席状況と点数とが連動していることが読み取れる。

- ② 〈資料1-3〉女子学生が男子学生よりも平均的によく勉強したことが分かる。1人を除いて、よく努力していたことが分かる。
- ③ 〈資料1-4〉〈資料1-5〉〈資料1-6〉1年の男子学生は努力して出席し、よく勉強していたことが伺い知れる。2年と4年の学生の4名については大分ばらつきがある。既に以前、同じ試験範囲を勉強した経験があるためか、授業への取り組み方が様々であった。学習に対する心の持ち方をもう少し工夫してみる余地があるように見受けられた。

#### 4-2. ドイツ語A3のクラスの資料より 読み取れること

〈資料2-1〉から〈資料2-5〉までに現れた事柄について考えてみる。

- ① 〈資料2-1〉〈資料2-2〉既にドイツ語A3のクラスの授業を受けたことのある学生が多く、それぞれの学生の生活スタイルや勉強のスタイルに合わせて授業を受けに来ているようで、変化に富んだ結果

となっている。

②〈資料2-3〉女子学生は自分のスタイルに合わせて、単位を取得できるようにうまく努力したようであった。

③〈資料2-4〉前学期、即ち、平成8年度後期（1996年10月1日より1997年3月31日まで）に私のドイツ語A1のクラスの授業を履修した学生について記してみると、次のようになる。

・受講届出学生 40名

（1年生37名、2年生と4年生3名）

・欠席放棄学生 3名（1年生2名、2年生1名）

・受講終了学生 37名

（1年生35名、2年生と4年生2名）

今学期、即ち、平成9年度前期（1997年4月1日より1997年9月30日まで）に私のドイツ語A3のクラスの授業を継続して履修した学生は、10名（2年生9名、3年生1名）であった。平成8年度後期末で私のドイツ語A3の履修を取り止めた学生は、27名であった。これらの27名の学生は、平成8年度後期に、私のドイツ語A1のクラスの授業と他のドイツ語A3のクラスの授業とを平行して履修していて、その大部分の学生が両方共に単位を取得したものと推測できる。私のドイツ語A3のクラスの授業を継続して履修してきた学生10名は、平成8年度後期に私のドイツ語A1のクラスの授業しか履修していなかったか、それとも他のドイツ語A3のクラスの授業にも出ていて、単位を取得できなかったか、のいずれかであったと思われる。

④〈資料2-5〉今学期、即ち、平成9年度前期に私のドイツ語A3のクラスの授業を新たに履修してきた学生は、25名（2年生19名、3年生と4年生6名）であった。これらの25名の学生は、以前にドイツ語A3のクラスの授業を受けていて、単位を取得出来なかった学生だと思われる。

## 5. 結 び

総じてドイツ語を教育することについては色々な場面が考えられる。ここでは教育の場を大学に限定して考察してみた。それも特に実例を限定して、教育の場

所を大学での私の教室とし、教育する者を私自身とし、教育を受ける側を大学生として話を進めた。実例の大学における私のドイツ語教育は、この時点では選択必修の科目の時期であった。

教室におけるドイツ語の授業について「点検・評価」しようとする時には、いくつもの部分について行なうことが出来る。教材であるドイツ語の教科書については別の稿で書く予定である。

ここでは、学生の授業への出席状況と筆記試験の成績との相関性の分布状態を調べてみた。これによって、学生のドイツ語習得への幾つかの姿を垣間見ることが出来た。このような関連の表は教育をする側が教育を受ける側の習得度を計る上で参考になるものと思われる。講義の終了後、教育をした側が教育を受けた側の習得度を、優、良、可、不可、で評価を下す場合には、役に立つものと思われる。評価の境界を何処に置こうかと思案した時、これらの関連の表はかなり客観的な資料を提供してくれるものと思われる。

教育の場、教育をする者、教育を受ける者、そこで使われる教材、等々が変わっても、私がここで示したような関連の表は、基本的にはいかなる場合でも、作成出来るものと思われる。

この他にも、私は学生に私の授業に対する意見を書いてもらった。いずれ機会があればこれらの資料もまとめてみたいと思っている。

## 6. 付 記

On the Relationship between the Numbers of attending Times and the Marks of Paper Examinations of the attending Students in my German A1 and A3 Classes

[平成10年（1998）1月12日(月)記]